

井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日
 発行・平成31年3月15日・第23号通信
 責任者・小林 孝夫(井の口まちづくり会会長)
 〒500-8018 岐阜市大仏町8 ☎058-264-2760
 事務局長・名和 利夫 ☎058-263-0097
 通信作成・馬場わかよ bwakayo@sf.commufa.jp

功労表彰と市民活動支援事業報告会へ出席

井の口マップの作成と活用を評価!

昨秋発行した井の口マップ第4版ですが、平成21年の初版から第4版までを合わせると15万部の総数になります。

今回の更新では「岐阜市市民活動支援事業コンペ」に応募し、プレゼンテーションを経て資金の一部をいただきました。また、大変多くのエリア内企業、個人の方からご協賛いただきました。皆さまの協力無くして継続できるものではありません。本当にありがとうございます。

この度、市の補助金対象事業報告会が2月24日(日)にメディアコスモスであり、会員の手づくりによるマップであること、勉強会その他の地域行事に活用していること、また、エリア内の随所に配置して来街者の手に届け、まちの情報を発信して好評を得ていることなどを報告し、評価をいただきました。(小林孝夫)



平成30年度岐阜市市民活動支援事業報告会にて

観光コンベンション協会(功労団体表彰)



平成31年2月19日、じゅうろくプラザで岐阜市観光コンベンション協会主催の「ホスピタリティ講座おもてなしの心」が開催され、「井の口まちづくり会」「伊奈波界限まちづくり会」「岐阜市土産品協会」が講演に先立って表彰されました。表彰対象はコンベンションおよび観光事業の発展と振興に尽力した団体ですが、これまでの文化の継承と住んで楽しい私共のまちづくりが岐阜市の観光からも評価されました。

講演は、毎朝のフジテレビ「特ダネ」でお馴染みの気象予報士、天達武史氏から90分にわたり楽しいお話をいただきました。(小林孝夫)

井の口マップ作成11年の歩み

平成20年3月の会設立当初は、フェスティバル部隊、わがまちマップ作成部隊、まちの歴史探索部隊、広報通信作成部隊の4つで活動を始めました。なかでもマップの作成と歴史の勉強は、まず自分たちのまちを知ること、そして愛することでもあり、当まちづくり会の原点と考えました。

マップ部隊と広報部隊、さらに事務局を担っていた金華まちづくり研究会が中心となってマップの原案を作り、井の口まち歩きイベントなどでの勉強会を経て、翌21年4月、1年をかけて作成した初版マップ・内面2色を3万部発行しました。



金華まちづくり研究会は、建築士らが所属する集団で、川原町のマップも先行して作成しており、まち歩きイベントや歴史勉強会で再発見したこのまちの素晴らしさや宝物といえるものをイラストにしました。

その後は、広報通信作成部会が中心となり、第2版は24年3月に4万部。まちなかアート部会やまちの風景検討部会、まちの歴史探索部会などの活動紹介を記載し、遊び・食べる・見るなどお店情報も入れました。当時の会長は現特別顧問の堀 達夫氏。事務局長は河崎良史氏(故人)で、設立時の思いが形になりました。第3版は27年12月に4万部。カラーの表紙が目目を惹きました。そして、30年8月末両面カラー印刷の第4版を4万部作成しました。(広報通信作成部会)

まちの文化的建造物顕彰制度

次年度より選定基準を見直し、近年建造物も対象に



平成26年度第1回顕彰 杉山邸



平成30年度第5回顕彰 川出家蔵

「まちの文化的建造物顕彰制度」も今年で6年になります。建物選定基準として、①井の口の文化を醸し出す建造物で、維持管理が優れているもの、②戦前の歴史的な建造物で、外観が程良く保たれているもの、③戦後の建物で、歴史文化薫る井の口の特性に配慮されたもの、を基に選んでいます。しかし、②の対象となる建物も少なくなりました。

今回、井の口の魅力をまちの景観で創出するために、新たな建築物を顕彰する基準を設けることは、まちの景観の向上に繋がると考えます。(まちの風景検討部会)

〔岐阜小学校3年 栗本悠佑君の夏休みの作品を総会で展示〕岐阜県立図書館主催による「第24回児童生徒地図作品展」において入選した「井の口まちづくり会まちの文化的建造物顕彰マップ」作品です。

4月29日定期総会を開催します

●日時 平成31年4月29日(祝・月曜)
午後1時30分(受付は0時30分)

●場所 岐阜市歴史博物館 1階講堂

今年も定期総会の季節を迎えます。井の口まちづくり会にとり、日頃の皆さまからのご理解とご協力は、会の活動を進めていくうえで大事なエネルギー源といえるものです。誠に感謝申し上げます。

とはいえ、設立12年目を迎える当会の活動は定着してきましたが、まだまだの感があります。今後のまちづくり会活動の広がりのためにも、たくさんの住民皆さまの総会へのご出席をお願いいたします。新規の会員も広く募集しています。なお、当日は受付にて、年会費の納入をお願いしております。(名和利夫)

定期総会記念講演

「近代岐阜の完成は、忠節用水だった」

講師 岐阜大学工学部社会基盤工学科環境コース 准教授 工学博士 出村嘉史氏

今回お話をいただく出村氏は、地方都市における近代都市形成史がご専門です。地方都市を対象に、明治維新以降に形成されてきた都市基盤の成り立ちを明らかにし、東京などの大都市とは異なる独自のメカニズムに着目することで、これまで都市の辿ってきた履歴を正しく理解するための視点を示されます。岐阜市と井の口の履歴を知るよい機会となることでしょう。

「小さな八百屋さん」天盛況
昨年末から、下茶屋町ふくろう絵工房の店先で、毎週土曜日、11時30分から昼間だけ開店している「小さな八百屋さん」をご存じですか?

場所を提供している伊藤さんは開店の動機を、「この辺りは買い物難民が大勢いるから」と、独居者や高齢者が買い物しにくい現状を憂います。

出店しているのは、真砂町にある八百屋「ヤオマ」さん。責任者の坂口智賀子さんが11時過ぎに車で到着後、次々と新鮮な野菜を店先に並べていきます。一番人気は、朝7時半から手作りで仕込んだというお弁当やおムライス、サンドイッチ、総菜類などで、まだ熱々の状態です。

店の手伝いをする向井梅子さんは「買い物に来られる方がいい人ばかりで、すでに常連となったお客さんとの会話を楽しんでいる様子。」

取材をした2月23日は出店8回目でしたが、近隣の人がばかりでなく、長良橋を越えてわざわざ来た人や散歩中のカップルまでも足を止め、プロッコー、レタス、ほうれん草、トマト、セロリ、大根、イチゴ、安納芋などを手に取り、「安いですね」「いいお野菜」「美味しそう」などと口々に言い合いながら、お勘定を済ませて帰って行かれました。(馬場わかよ)



場所を提供する伊藤さんと店を切り盛りするヤオマツのお二人



所狭しと豊富な品揃えが並び

開催日: 毎週土曜日
時間: 11:30 ~ 13:30
場所: ふくろう絵工房

平成30年度・井の口まちづくり会・後期・活動報告

まちなかアート部会 おんぱく協賛事業

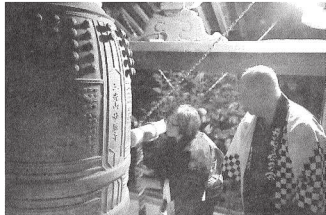
まちなかお月見アート

〔金華・井の口マップ4訂版発行記念イベント〕

当会設立の2年目より、金華山にかかる十三夜の月さまとススキ飾りをしたまち並みの美しさをアートと捉え、「まちなかお月見アート」は開催しています。

9回目の今では、おんぱく協賛事業として、多くの方に参加をいただく恒例イベントになっています。

本年は、十三夜の前日の10月20日(土)に、会員調達のススキを60軒ほどの玄関先に飾っていただき、妙照寺の山門前と大仏殿東側には今回の特別アートである華久による「お月見の花生け」を展示し、翌21日(日)夕は、70名近い参加申込みを得て、当会の役員らが発行したばかりのマップを使ってまちを案内しました。



事前申込みをされた参加者は、妙照寺の鐘つき体験の後、月が出始めた井の口のまちを5班に分かれ、会員の説明を聞きながら御鯨所跡、梶川堀、屋根神様、特別拝観の大仏殿や般若寺などのお月見のビュースポットを巡り、ふくろう絵工房でのぜんざいの振る舞い付きコースを回りました。



般若寺では、「ブレンドコピー」による協賛コンサートが終了後に開催され、観客は歌に酔いしました。今回は、おんぱくの記事を見ての参加者が多く、井の口の歴史的まち並みに驚きと感動の声をあげ、次もぜひ参加したいとの言葉を頂戴しました。(伊藤逸夫)



華久による「お月見の花生け」

まちの風景検討部会

バス視察研修 「越前おおの」

11月4日(日)、まちの景観づくりに先進的に取り組んでいる福井県大野市への視察研修が、会員ら35名の参加を得て行われました。

現地に到着後、大野市の担当者から市の景観形成への取り組みについて説明を受けました。景観条例に基づいて、まち並みにあった住宅や店舗などの外観の修景に一定の助成金が出るということでした。



大野市の担当職員から説明



越前・大野城を背景に集合写真を撮影

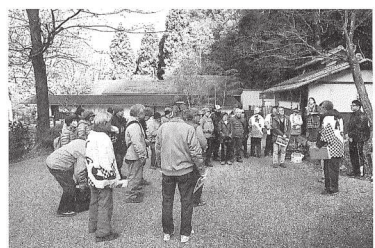
昼食後は2班に分かれ、観光ボランティアの案内で市内を散策。あいにくの小雨模様でしたが、大野城下に残る古い商店・民家が並ぶ七間通りや、16ものお寺が集まる寺町など、まち歩きを楽しみました。今後の活動に必ず生きると実感した有意義な視察研修でした。(片岡学史)

まちの歴史探索部会

金華山・巨石石組み群見学会

新聞、テレビ等で幾度も報道されています金華山の中腹に35名の方に参加いただきました。見学場所は金華山の中腹、馬の背登山道から少し外れた普段は入れない場所です。

現地では、社会教育課の高橋係長から石組み群の説明や調査状況、巨石石組みが信長の嫡男信忠の館跡の可能性がするなど、興味深いお話をいただきました。足場の悪い急斜面もありましたが事故も無く、見学後は現地解散とし、参加者は師走の金華山を堪能して帰られました。



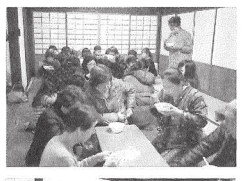
巨石石組み群見学会出発前の様子

第10回井の口寄席

井の口まちづくり会 NPO・ORGAN

2月17日(日)夜に、第10回「井の口寄席」が妙照寺本堂で開催されました。今年も策伝大賞に挑んだ全国の学生から、7名が当高座へ上っていただきました。男女問わず体を張って演じていただき、笑いに包まれた大変楽しい時間でした。

中入りでは、例年のとおり婦人会有志のご協力で温かい豚汁が振る舞われ、演者と観客との交流が盛んに行われました。最後には会場の方々に「大笑」が選出され、伊藤副会長手づくりの盾が贈られました。毎年、地域の方々、NPOオルガンや、笑いと感動のまちづくりの方々には協力をお願いしていますが、今後とも続けていきたい事業でありますので皆さまのご来場をお待ちします。(小林孝夫)



事務局だより

●事務局長 名和 利夫

今年度「井の口マップ」第4版を作成し、10月に井の口地区全家庭に配布しました。このマップには井の口地区の地図とともに建物のイラスト、歴史等関係記事を豊富に掲載しています。井の口のまちに住んでいる方には当たり前のことばかりですが、親戚の方々や友人に土産代わりにお渡ししたくどいと思われたいだけ、お届けします。

●事務局次長 片岡 学史

今年、生まれて初めて町内の「お日待ち」に参加した。8名の参加者のうち、還暦過ぎの私が最年少。町内に小学生は一人と聞き、少子高齢化を実感する。このままでは住む人がいなくなるのでは、といった恐れすら感じた。少子高齢化への対策は国や自治体の仕事だが、私達にもできることが何かあるはずだ。遙か先のこともかもしれないが、本会の活動の積み重ねが、その回答の一つになると願いたい。

●広報通信部会長 馬場わかよ

まちづくり会費が不足しています。マップ作成には補助金を頼り、それでは足りず協賛金をお願いしています。これまで会員や地域の皆さんの参加からとイベントを無料で開催してきましたが、限界が見えてきています。岐阜市の中でも毎月のように活動しているまちづくり会には他にありません。金華の方は1口500円の会費です。どうかまちを愛する住民の皆さん4月総会にお越しください。

新聞にも年賀状展の記事が掲載され、会期中は多くのご来場をいただき、年賀状を出されていた来場者には、正法寺様のご厚意で大仏殿への拝観をしていただきました。今回もいただいた年賀状は大仏様の胎内に保存され、参